

2024年 8月 浜松聖書集会のご案内

(時間 : 午前10時 ~ 正午)

- 8月 4日 (日) 集会
司会 : 大手 美千代 (アクト研修交流センター36セミナー室)
聖書講話 : ミカ書 3章1~ 12節
「偽予言者と権力者達の罪」 水戸 潔
- 8月11日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)
司会 : 武井 めぐみ 感話 : 岩田 堯
聖書講話 : ローマの信徒への手紙 4・5・6章
「罪に死にキリストに生きる」 溝口 春江
- 8月25日 (日) 集会 (クリエート浜松 22号室)
司会 : 笹井 あかね 感話 : 鈴木 やす子
聖書講話 : ヨハネの黙示録 13章
「2匹の獣と戦うために忍耐と信仰が必要」 武井 陽一

最終的には十字架はどこに立てられるか 溝口 正
—ヨハネの黙示録21章11~16節—

…神は愛でありたもう。神の愛は、一人の滅ぶことを見逃さないであろう。不信仰者に対して、最後の有罪判決を下し、多数の人々を火の池に投げ込むことを、キリスト御自身が実行なさるであろうか。彼の絶対愛がこれを阻(はば)むにちがいないと私は確信する。義は最終的に愛に呑みまれるであろう。

それ故、最期の判決を下す前に、キリストみずから、あらゆる手段を用いて、死に至るまで悔改めなかった人々のために、十字架の福音をたずさえて黄泉にまでも追いかけて、救いへと導く努力を傾倒されるのではなからうか。そして、最後の法廷において、先にのべたとおり、キリストみずから十字架を立てられ、最後のゆるしの宣言を与えたもうではなからうか、と私はひそかに信じるのである。私は悔改めることなく不信仰のまま死んで行かれた人々に対しても、十字架の福音は必ず有効であると信じたい。だからこそ福音であり、神は愛なりである。最後の審判は、最後の救済となる。それ故に今、「汝ら悔改めて福音を信ぜよ」と叫ばねばならない。

神が御子を世につわれたのは、世をさばくためではなく、御子によってこの世が救われるためである。(ヨハネ福音書3章17節)

(1995年9月『復活』348号)